

食糧援助の現場から

現場の活動を支えるWFP職員の仕事

ザンビア・カワンプワ地域事務所 フューデイズ・ルワンドの一日

アフリカ南部に位置するザンビア共和国。カワンプワ事務所は、この国の北部に居を構える。5人ほどのスタッフから成る小さな地域事務所だ。しかしながらここは、コンゴ民主共和国及びアンゴラからザンビアに流入した難民に対するWFPの支援プロジェクトが運営されている重要な拠点の一つだ。

この事務所に勤務するWFP職員、フューデイズ・ルワンド(ザンビア人)の1日は朝8時に始まる。今日は、難民キャンプで月2回行われる食糧配給の状況を確認する日だ。長年紛争の続いたコンゴ民主共和国と北部の国境を接するこの地域には、コンゴ民主共和国より流入した難民を受け入れるキャンプが2か所あり、計約4万7千人がWFPの食糧援助を受けて生活をしている。フューデイズはここで、WFPの食糧支援が無事に難民に届くよう、現場で配給作業に携わるNGOスタッフとの連携を強化し、また実際の食料配給の現場をチェックして回る仕事を担当している。

今回食糧配給が行われるカラ難民キャンプは、カワンプワ事務所からジープで1～2時間ほどの場所にある。WFPロゴをつけたジープは、舗装のされていない道を進む。雨期には、ぬかるみの中で立ち往生することもしばしばだ。上下に揺れるジープに乗って、フューデイズは慣れた様子で難民キャンプに向かう。



キャンプに到着すると、すでにWFPのパートナーであるNGOスタッフによる配給が始まっていた。人々は、キャンプから交付された食糧引換証を手配給を待つ。フューデイズは、列をつくって配給を待つ難民の1人1人に声をかけ、食糧が公平に行き渡っているか

を確認してまわる。彼を見て、話をしようと近寄ってくる人々もいる。食糧配給に実際に携わっているスタッフにも積極的に声をかけ、彼らが抱えている問題や悩みを聞いてまわる。よく聞かれる声は、もっとバラエティーに富んだ食糧援助ができないかということだ。



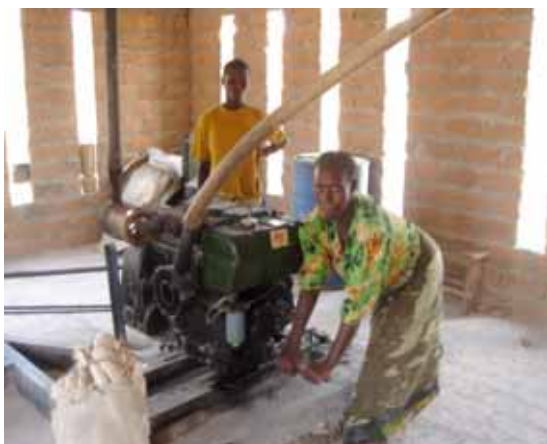
難民キャンプをまわるフューデイズ



難民キャンプ内での食料配給

食糧配給の受け取り手は女性がほとんどだ。これは配給物資が転売されることを防ぎ、家庭内の子供に食糧を届ける上で効果的だからだ。

この難民キャンプをベースとするマペンド女性協同組合は、難民のための脱穀サービスを行っている。難民の女性達自らがイニシアチブをとり、トウモロコシやキャッサバ(現地で取れる穀物)を脱穀する作業を計画・実行する。作業によって得られる報酬は、彼女達の家計の助けになっているとのことだ。同組合は、この脱穀サービスを通じて女性と男性のパートナーシップを構築したことで高く評価されている。女性の自立及び地位向上の達成に最も貢献したWFPプロジェクトに送られるキャサリン・ベルティーニ賞[1]を受賞したことでも有名だ。



カラ キャンプ内の脱穀所の様子

フューデイズはキャンプの拠点を回り、状況確認を終えて事務所に戻る。「支援を必要としている人々が自立するまで、しっかり食糧を届けたい。」そう語るフューデイズの目は、難民が無事自国に帰還し、または再定住する未来^[2]をしっかりと見つめている。

[1] 毎年3月8日の国際女性の日に、その年の食糧支援における女性の地位向上に最も寄与したWFPプロジェクトに贈られる賞。賞の名前は前WFP事務局長キャサリン・ベルティエニにちなむ。

[2] コンゴ民主共和国では最近の民主的選挙の影響で、2007年において2万人のコンゴ人難民の帰還が予想されている。

お知らせ

「フードフォース」教師用ガイド 千部増刷

去年、WFP 国連世界食糧計画では、財団法人上月スポーツ・教育財団の支援を受け、WFPが制作したビデオゲーム「フードフォース」を授業で活用するための教師用ガイド千部を制作し、希望者に配布しました。「フードフォース」とは、世界の飢餓とWFPの緊急食糧援助活動について、より多くの人々に理解してもらうことを目的とするビデオゲームで、プレイヤーはWFPの「職員」となって食糧援助活動を疑似体験することができます。WFPはこのゲームを是非学校の授業で取り入れて欲しいという願いから教師用ガイドを制作しました。



フードフォース教師用ガイド

ガイドは大変好評で、当初用意した千部はあっという間になくなり、せっかく申し込みをいただいてもお配りできない状況が続いていました。そこで財団法人上月スポーツ・教育財団にあらたにご支援いただき、千部を増刷しました。

ガイドの第1章では、飢餓と国際協力に関する学習モデルプランを、第2章ではWFPの活動内容を実際の授業で扱った事例を多数紹介しています。資料や写真、授業プラン例なども豊富です。制作には現役の小学校の先生が携わり、先生方にとって非常に使いやすいガイドに仕上がっています。また、ゲームのCD-ROMと、WFPの活動を紹介する5つの短い映像も添付されています。

昨年の11月、富山大学人間発達科学部付属小学校ではこの教師用ガイドを活用したモデル授業が行われ、マスコミに大きく取り上げられました。(WFPメールニュース(拡大版)12月18日号参照)授業を受けた生徒からは、「飢餓に苦しんでいる人がたくさんいると分かって、ご飯を残さないようにしようと思いました。」などの感想が寄せられました。授業を担当された先生からも、生徒たちの新鮮な問題意識の芽生えに感心したとの感想をいただきました。WFP日本事務所では、全国の学校にこのような授業を広めていきたいと考えています。

先日、増刷されたガイドの授与式が行なわれ、WFP日本事務所代表・玉村美保子が財団法人上月スポーツ・教育財団専務理事・東尾公彦様より目録を授与されました。貴重な支援をいただき、財団の皆様に深く感謝いたします。

今回増刷された千部のガイドは、先着順で希望者に配布いたします。ご関心のある先生・教育関係の方はどうぞ<http://www.wfp.or.jp>よりお申し込み下さい。

また、実際に授業で使われた各種資料も取り揃えておりますので、授業にご関心のある方はぜひ国連WFP協会・樋口 TEL (045) 221-2515までご連絡ください。



授与式の様子

活動報告

ワン・ワールド・フェスティバル参加

2月3日、4日に大阪国際交流センターで行われた国際協力イベント、「ワン・ワールド・フェスタ」に出展しました。

政府機関、国際機関、NGO、企業等の団体のブース、講演、ワークショップ、ステージでの出し物等、2日間にわたり、国際協力の多彩な催しが行われました。WFPは、ボランティアの協力も得て、ブース出展の他、3日午後には同センター会議室でWFPの活動とビデオゲーム「フードフォース」を紹介するワークショップも行いました。

会場は、国際協力に関心のある中、高、大学生、一般市民の皆さんで熱気にあふれ、WFPブース、ワークショップにもたくさんの方にお越しいただきました。本当にありがとうございました。飢餓問題やWFPの活動に関しても、たくさんのご質問やご意見を頂きました。今後の活動の参考にさせていただきますと考えています。

残念ながら、関東地区に比較すると、関西も含め他の地区の皆さんとは普段直接触れ合う機会が少ないのが現実ですが、これを機に関西地区で世界の飢餓やWFPの活動に対する理解が高まり、今後ますますWFPへのご支援を頂ければ幸いです。



今後の予定

3月8日 国際女性の日 International Women's Day
(日本で開かれるシンポジウムでシーラ・シスル
WFP事務局次長が基調講演をする予定)

3月20日 国連WFP協会2007年度 通常評議会

発行: WFP日本事務所 <http://www.wfp.or.jp>
特定非営利活動法人 国連WFP協会 <http://www.jawfp.org>